

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2012年4月26日

報告書名：平成22年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

平成22年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

2012年4月26日

事業名	ナンガハル州初等教育改善事業	
事業対象地	アフガニスタン国 ナンガハル県カマ郡、ベースット郡、モマンダラ郡、ジャララバード市、スルクロッド郡、クズクナル郡、ダライヌル郡、ホギヤニ郡、コット郡、アスカミナ郡	
事業期間	事業期間：2010年12月7日～2011年12月31日	
公的資金種別	ジャパン・プラットフォーム 人道支援複数年事業	
総支出・返還金	総支出：72,285,282円（返還額：16,999,511円）	
プロジェクト目標および、その達成度	<p>本事業の目的は、ナンガハル州の「児童の学習環境を改善する」ことである。①校舎建設・備品供与活動、②図書室改善活動、③子どもの学校外教育活動の3つの要素で構成し、ハード要素とソフト要素の相乗効果によって、児童の学習環境を改善する。学校建設と図書室改善活動の両活動を実施した7校では、就学者数が計1854名、27%増加した。ナンガハル州の就学者数の増加率は5%（2009年データ）であることから、事業目的である「児童の学習環境の改善」は達成されたと判断される。</p>	
実施内容 概要	<p>(1) 校舎建設活動</p> <p>校舎建設・備品供与活動については、3校で22教室が建設され、30クラスの1478名が野外授業から解放され、教室で学習できるようになった。</p>	<p>受益者数</p> <p>郡部の3校の児童2513名、教員59名。</p>
	<p>(2) 図書室改善活動</p> <p>29校に図書室が設置され、1校あたりの蔵書数は平均で820冊となった。また、教員研修を37校に、図書館員研修を26校に対して実施した。教員研修を終了した37校で図書活動が実施されており、1カ月あたりの小学生児童の図書貸出数が平均で535冊、図書室利用者数が平均で958名に改善した。5つの公共図書館については、蔵書数が平均2319冊となった。1カ月あたりの小学生児童の図書貸出数が平均で115冊、図書室利用者数が平均で62名に改善した。で396回（18回×22校）移動図書箱活動も実施した。</p>	<p>郡部の41校の児童54,736名、教員1,992名</p>
	<p>(3) 子どもの学校外教育活動</p> <p>子ども図書館は、年間に292日開館し、利用者数は、のべ61,676名（1日あたり211名）で、女子の割合は50%だった。不就学児童のための特別教室については、50名が就学していたが、引越し等の理由のため修了児童数は、68%の34名だった。</p>	<p>ジャララバード市内の3歳から14歳の児童211名。</p>
成果	<p>事業目的である児童の学習環境の改善の指標は、就学者数、進級率の変化であった。就学者数については、学校建設と図書室改善活動の両活動を実施した7校（うち3</p>	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2012年4月26日

報告書名：平成22年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

校は2010年度に建設、別の1校は自己資金で2011年に建設)では、就学者数が6823名から8677名へと1854名、27%増加した。ナンガハル州の就学者数の増加率は、年5% (2009年データ、教育省)なので、児童の学習改善の改善は達成されたと判断される。一方進級率については、学校側のデータ不足、当会スタッフのデータ収集能力不足のため、正確なデータが収集できなかった。

#### (1) 校舎建設活動

##### 「野外クラスが30解消され、1826名が机・椅子のある教室で学習している」

指標は、「野外で学習するクラス数、児童数」であったが、校舎建設によって就学児童、クラス数が増加することから建設した教室数に応じて野外で学習するクラス数、児童数が減少しないことから、「教室で学ぶクラス数、児童数」を報告する。3校の合計で30クラスの1478名が、安全で快適な教室で学習できるようになったため、成果1は達成されたと判断される。教室で学ぶ児童数は目標値より348名少なかったが、これはクラスサイズが、61から50へと減少したためである。1教室あたりの児童数が減ることは学習環境の改善にとって適切なことなので、目標値に達しなかったことは問題ないと考えられる。

#### (2) 図書室改善活動

##### ①「36の小学校で図書活動が行われる」

##### ②「5の公共図書館で児童サービスが行われる」

両者とも指標は、「児童の図書室利用者数」、「児童図書の貸出数」である。学校図書室については、1カ月間あたりの平均値で958名が図書室を利用し、535冊の図書の貸し出しが行われている。なお、このデータは本事業のターゲットグループである小学生児童のみについてのものである。1カ月あたりの図書室利用率(図書室利用児童数/児童数×100)は90%で、1カ月あたりの図書貸出率(図書貸出数/児童数×100)は50%となっている。これらのデータは、延べ数ではあるが、対象校の児童の9割がひと月あたり1回は図書室を利用し、5割がひと月あたり1冊は図書を借りていることを示している。事業開始前には41の対象校のうち39校には図書室はなく、2校には図書室はあったものの中高生向けの図書だけで、小学生向けの図書・絵本は皆無で、小学生の利用者はいなかった。したがって、学校図書室については、成果2の達成度は高いと判断される。

#### (3) 子どもの学校外教育活動

##### ①「1日あたり120人の児童が学校外教育活動に参加する」

##### ②「50人の不就学児童が教育の機会を得る」

①については、1日あたりの子どもの図書館の利用者数は、211人で、年間でのべ

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2012年4月26日

報告書名：平成22年度 ジャパン・プラットフォーム 事業終了報告書

	<p>61,766人だった。図書貸出数は、月平均602冊で、利用者数、貸出数ともに前年度比20%増となった。利用者数増加の要因として子ども図書館が子どもが安心して遊べる場所として親、コミュニティによって認知されたことがあげられる。特筆すべきは、利用者の女子の割合が50%に達し、維持されているという点である。</p> <p>②については、2010年9月に入学した50名のうち、68%にあたる34名が2011年6月に修了し、このうち8名が公立小学校に編入した。2011年9月に新規の50名が入学し、学習を続けている。16名が退学した要因は家族の引越し等によって、通えなくなったためである。</p>
課題と教訓、提言	<p>(1) 学校建設活動 治安状況の悪化のため、1校では現場監督の現地への訪問回数を可能な限り減らした。</p> <p>(2) 図書室改善活動 事業目的の指標の一つである進級率のデータをベースライン調査時に収集しようと試みたが、学校側のデータ不足(2年間の就学児童数、退学者数、留年者数データが必要)、スタッフの能力不足のため、使用に耐えうるデータは収集できなかった。進級率は、学習環境の質的な面を表す指標なので、代替指標を設置して測定する予定である。</p> <p>(3) 子どもの学校外教育活動 特別教室に参加していた50名のうち16名が家族の引越し等のため退学したが、これは外部要因なので、ログフレームに記載しておくべきであった。</p>